



オンライン開催  定員 **120名**

私たちが一人一人が担う 多様性豊かな社会とは？



日本で暮らす在留外国人数は2025年末時点で412万人。神奈川県内では30万人を超え、過去最高を更新しています。言語や文化、背景の異なる人どうしがともに暮らし、ともに社会を担う未来はどのように描くことができるのか、ちがいを豊かさに変えていくには何が 필요한のか——。多文化共生社会に向けて、一緒に考えてみませんか。

SEMINAR 1

ともに暮らす ～難民受け入れの現場から見えること～

6月20日は「世界難民の日」。鎌倉にあるアルペなんみんセンターは、迫害から逃れた人たちのシェルターであり、地域の人と難民が出会い、つながる場でもあります。同センターの活動を中心に、日本における難民の現状や地域での受け入れの取り組みを具体的に知り、難民の人たちを隣人として迎え入れるために私たちができることは何か、一緒に考えましょう。

講師 **松浦 由佳子さん**

認定NPO 法人アルペなんみんセンター
理事・定住支援コーディネーター



日時 **2026年**
6月17日 水 **18:30**
20:00
 接続入室 18:00～

申込締切

2026年 **6月16日** 火



SEMINAR 2

さまざまな「ちがい」を超えて ～対話を通して一緒に答えを探すには～

変化が激しい今、身近な人であってもそれぞれにとっての「普通」が違い、はっきり答えが出せない事柄が多いと感じませんか。「対話」はその場にいる人たちが力を合わせ、一緒に答えを探す共同作業。簡単ではないけれど、互いの考えを深め合える楽しい時間にもなります。様々な形で対話の場をつくってきた講師と、外国人住民など異なる背景をもつ人と話し合っていく方法について考えます。

講師 **木下 理仁さん**

東海大学国際学部 非常勤講師



日時 **2026年**
7月19日 日 **10:30**
12:00
 接続入室 10:00～

申込締切

2026年 **7月16日** 木



講師 PROFILE

SEMINAR 1

ともに暮らす ～ 難民受け入れの現場から見えること～

松浦 由佳子 (まつうら ゆかこ) さん

認定 NPO 法人アルペなんみんセンター 理事・定住支援コーディネーター。

大学卒業後、国際協力機構 (JICA) で開発途上国の貧困削減や災害援助に携わる。駐在先のアフガニスタンでの出会いがきっかけで日本国内の難民問題に関心を持ち、転職。2022 年からアルペなんみんセンターで日本に逃れてきた難民の定住支援を担う。コロンビア大学国際関係修士、オーストラリア国立大学アラブ・イスラム研究センター中東・中央アジア研究修士。

SEMINAR 2

さまざまな「ちがい」を超えて ～ 対話を通して一緒に答えを探すには～

木下 理仁 (きのした よしひと) さん

東海大学国際学部非常勤講師、オンラインワークショップ「TAKOトーク」コーディネーター。

青年海外協力隊 (スリランカ)、かながわ国際交流財団職員、東京外国語大学ボランティア・コーディネーターなどを経て現職。趣味は落語。

著書に『国籍の?がわかる本』『難民の?がわかる本』『国籍のゆらぎ、たしかなわたし』(いずれも太郎次郎社エディタス)。2026 年 2 月に新刊『意見のちがう相手と対立するのではなく対話をするためのレッスン』(旬報社)が刊行された。



申込方法

財団ホームページの申込みフォーム (表面 QR コードからアクセスできます)、
または FAX・メールにてお申し込みください。

お申し込みの際には、以下の内容をご記入ください。

- ① 希望のセミナー (「ともに暮らす～難民受け入れの現場から見えること～」または「さまざまな「ちがい」を超えて～対話を通して一緒に答えを探すには～」)、② 氏名 (ふりがな)、③ 電話番号、
- ④ メールアドレス、⑤ お住まいの自治体 (市区町村のみ)、⑥ ご所属 (任意)。

「ともに暮らす～難民受け入れの現場から見えること～」は 2026 年 6 月 16 日 (火) まで、「ちがい」を超えて～対話を通して一緒に答えを探すには～」は 2026 年 7 月 16 日 (木) までにお申し込みください。



FAX 番号

045-620-0025



申込み用メールアドレス

tabunkares-2026@kifjp.org